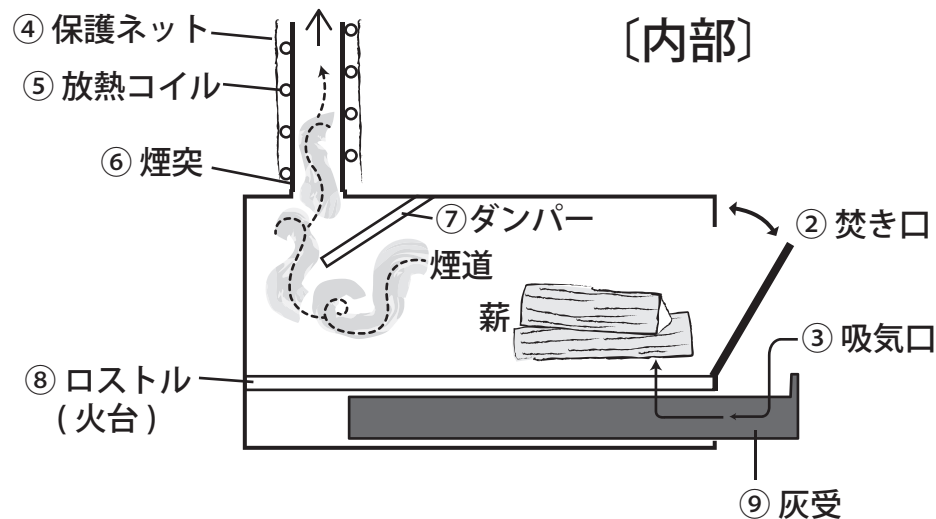
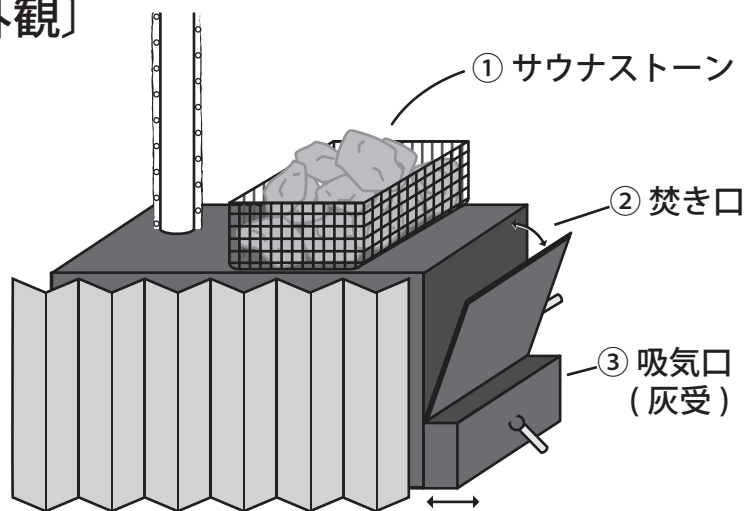


サウナストーブの構造と名称 —上手な焚き方—

〔外観〕



① **サウナストーン** — ロウリュ(水をかける)する事で体感温度を上げる事が出来ます。少量ずつかけて下さい。大量にかけると熱水が跳ね返ったり、温度が低下したりして危険で逆効果です。

② **焚き口** — 高温になります。注意!

最初の火入れは
スタッフが行います。
適宜、薪の補充を
お願い致します。

【薪の補充と火力のコントロール】

薪の適量は燃焼室の容量の 1/2 ~ 2/3 です。
薪が一段になると熱量不足。詰め過ぎは気道
不足で燃焼不良になります。

③ **吸気口** — 灰受を兼ねたスライド式です。開閉によって火力の調節が出来ます。5mm ~ 30mm が適当で開きすぎは逆効果です。

④⑤⑥ **煙突部分** — 煙突による排気とコイルによる熱交換を行っています。保護ネットもかなりの高温にはなりますので、触らないで下さい。また、ストーブ本体に近い煙突が赤くなっている時は高温異常です。火力を下げてください。

⑦ **ダンパー** — 排気と燃焼のコントロールをしています。薪をダンパーに当たるまで奥に詰めると煙道をふさいで燃焼を妨げます。

⑧ **ロストル** — 薪を乗せる台です。スリット(隙間)部分からの吸気と残灰の処理をしています。薪や炭でスリットがふさがりすぎると火力が低下します。

⑨ **灰受** — 吸気口を兼ねていますので、灰が溜まりすぎると吸気を妨げますが、受皿に 1/2 程度までは問題はありません。灰の処理は残り火による出火の危険がありますので、係の者にお任せ下さい。